

(中)日本詩人クラブ例会・イベント 2009年1月

2008 平成20年 9月～2009 平成21年 2月

担当理事：谷口ちかえ

「詩の学校」第II期「世界の詩を楽しむ夕べ」PartII

——越境する詩 モダンから現代まで——

日 時 1月15日(木) 18:00～20:00

場 所 日本詩人クラブ事務所

〒162-0808 東京都新宿区天神町71 宇野ビル 4 F 電話&FAX 03-6413-7245

地下鉄東西線「神楽坂」駅矢来口(2番出口)下車、徒歩約5分

地下鉄有楽町線「江戸川橋」駅(1b出口)下車、江戸川橋通り沿いに南へ徒歩約5分

内 容 「日本の詩・フランスの詩—音比べと訳の試み」 講師：田部武光



シャンソンを聞かせながら歌詞の章を指で示す講師。
30名近い受講者が詩と音楽を楽しみました。

2009 平成21年 1月 新年会

担当理事：船木俱子・村山精二

日 時 平成21年1月10日(土) 午後3時より

会 場 東京大学駒場Iキャンパス ファカルティハウス・セミナールーム

TEL 03(5790)5931

渋谷駅より京王井の頭線・駒場東大前東口下車 徒歩2分

会 費 4000円



恒例の(?)女声合唱団。80名ほどの参加者を得て、今年もにぎやかにスタートしました。

(中)日本詩人クラブ例会・イベント 2009年2月

2008 平成20年 9月～2009 平成21年 2月

担当理事：谷口ちかえ

「詩の学校」第II期 「世界の詩を楽しむ夕べ」 PartII

——越境する詩 モダンから現代まで——

日 時 2月19日(木) 18:00～20:00

場 所 日本詩人クラブ事務所

〒162-0808 東京都新宿区天神町71 宇野ビル 4 F 電話&FAX 03-6413-7245

地下鉄東西線「神楽坂」駅矢来口(2番出口)下車、徒歩約5分

地下鉄有楽町線「江戸川橋」駅(1b出口)下車、江戸川橋通り沿いに南へ徒歩

約5分

内 容

- ・講義「リルケにおける悲歌とソネット（実作に即して）」
- ・終了式



講師：神品芳夫氏



事務所の定員をはるかに超える40名もの人が集まり、リルケ研究の第一人者・神品芳夫先生の講義に耳を傾けました。『ドゥイノの悲歌』によって悲歌の形式を学び、『オルフォイスへのソネット』の原文朗読など、他ではなかなか味わえないだろう講義でした。

今回をもって第II期の「詩の学校」～世界の詩を楽しむ夕べ～は全6回を終了。簡素な終了式のあとで、近くの中華料理店で懇親会を設けましたが、こちらにも多くの方が訪れてくれました。

受講の皆さん、半年間ありがとうございました。

2009 平成21年 2月 例会

担当理事：川中子義勝

日 時 平成21年2月14日（土）午後2時より

会 場 東京大学駒場Iキャンパス ファカルティハウス・セミナールーム

TEL 03（5790）5931

渋谷駅より京王井の頭線・駒場東大前東口下車 徒歩2分

会 費 会員・会友無料 一般500円

内 容

・会員による自作詩と小スピーチ



井手ひとみ氏



住連木 律氏



せきぐちさちえ氏

・講演「失われた名山の歴史と文化」



講師：高橋千劔破氏（日本ペンクラブ常務理事）

「日本は山国であり、山の見えない所はない。どのような大河も遡れば山に至る。命の源である水の恵みを与えてくれ続ける山が、日本独特の山岳信仰を育んだのは当然のことであった。また四季折々の山の佇まいが、日本人の精神文化と深く関わり、日本人の感性を育んできたのも疑いない。だが、近世以前の山の歴史や文化はきわめてあいまいであり、語られる歴史には欺瞞が多い。なぜか。」



夏を思わせる暑い陽射しの中、60名を超える人が話に惹きこまれました。明治政府が採った廃仏毀釈が、今に続いていることを納得しました。2時間の講演が短く感じられるほどの充実した時間でした。

(中)日本詩人クラブ例会・イベント 2009年 3 月

2009 平成21年 3 月 例会

担当理事：川中子義勝

日 時 平成21年 3 月14日（土）午後 2 時より

会 場 東京大学駒場Iキャンパス 18号館ホール

（正門から時計台の背後に見える高い建物の1階・正面入口）

TEL 03（5454）6447

渋谷駅より京王井の頭線・駒場東大前東口下車 徒歩 2 分

会 費 会員・会友無料 一般 5 0 0 円

内 容

・会員による自作詩と小スピーチ



内藤喜美子氏



南川隆雄氏



上田由美子氏

・講演「犠牲の言葉をめぐって」



講師 高橋哲哉氏

「靖国の問題から入り、キルケゴール、ベンヤミン、デリダらの思考に触れながら、私がいま模索していることをお話できたらと思います。」

高橋哲哉氏は、福島県生まれ、東京大学大学院総合文化研究科教授。専門は哲学・歴史認識論。市民に開かれた場でも、戦争や平和の問題について具体的に語ってこられた。アウシュヴィッツ生存者の証言をまとめて話題となった映画「ショアー（虐殺）」の日本への最初の紹介者としても知られる。「詩と思想」3月号、シンポジウム「言葉と戦争」のパネリストとして、柳田国男と靖国の関係などを語っている。著書に、『記憶のエチカ——戦争・哲学・アウシュヴィッツ』（1992）、『戦後責任論』（1999）、『「心」と戦争』（2003）、『教育と国家』（2004）、『証言のポリテイクス』（2004）、『靖国問題』（2005）、『国家と犠牲』（2005）、『状況への発言——靖国そして教育』（2007）他がある。



電車も遅れるという荒天の中、60名の人たちが戦争と宗教の関係を拝聴しました。

2009 平成21年 3月 詩論研究会

担当理事：原田道子

日 時 平成21年3月7日（土）午後2時より

会 場 東京大学駒場Iキャンパス 18号館4F コラボレーションルーム1

TEL 03（5465）8760

渋谷駅より京王井の頭線・駒場東大前東口下車 徒歩3分

会 費 会員・会友無料 一般500円

内 容 「パウル・ツェランという傷」～ユダヤ・ドイツ詩史の余白に～



講師：関口裕昭氏

ドイツ系ユダヤ人の詩人パウル・ツェラン（1920～70）の詩には、「死のフーガ」をはじめほとんどの作品にアウシュヴィッツ体験から受けた傷が深く刻印されています。また「傷（Wunde）」という形象もしばしば現れます。

彼にとってのドイツ語は、最愛の母から受け継いだ「母語」であると同時に、家族や同胞を理不尽な方法で死に追いやった「殺人者の言葉」でもありました。この矛盾と緊張をはらんだドイツ語だけが、彼にとって詩を書くことが可能な言語でした。書くことは「搔く」、すなわち過去の傷を引っ搔き、それを常に生々しく切開していく作業でもあったわけです。

今回は、ツェランの言葉の源にあった「傷」を手がかりにしながら、それが彼個人にとどまらず、長いユダヤ人の迫害の記憶にも繋がることを考察します。60年以降のツェランの詩には、ハイネ、カフカ、フロイト、ローザ・ルクセンブルク、ネリー・ザックス等、ユダヤ系作家の引用が頻繁に登場しますが、その多くが民族の負った「傷」をテーマにしています。痛々しい傷と傷の間を縫うようにして、何百年にもわたる詩の言葉の道筋が形成されていることをお話ししたいと思います。

講師プロフィール

関口裕昭（せきぐち・ひろあき）1964年大阪府生まれ。慶應義塾大学文学部卒、同大学院博士課程修了。専攻ドイツ文学（近現代ドイツ抒情詩、ドイツ・ユダヤ文学）。現在、愛知県立芸術大学准教授。著書に、『パウル・ツェランへの旅』（オーストリア文学研究会賞）、『評伝 パウル・ツェラン』（小野十三郎賞特別賞）など。



豊富な資料をもとに40名近い人がツェランの詩と生涯を学びました。

(中)日本詩人クラブ例会・イベント 2009年4月

2009 平成21年 4月 三賞贈呈式

担当理事：水島美津江

日 時 2009年4月11日(土) 午後2時より

場 所 日本出版クラブ会館

東京都新宿区袋町6 Tel:03-3267-6111

都営大江戸線「牛込神楽坂駅」A-2出口より 徒歩約2分

J R 「飯田橋駅」西口より 徒歩約8分

地下鉄有楽町線 「飯田橋駅」B3出口より 徒歩約7分

地下鉄南北線 「飯田橋駅」B3出口より 徒歩約7分

地下鉄東西線 「神楽坂駅」神楽坂口より 徒歩約7分

会 費 贈呈式：無料

記念パーティー：8,000円

贈呈式次第 司会 吉田義昭・黒羽由紀子

1. 開会の言葉 北岡淳子理事長
2. 会長挨拶 佐久間隆史会長
3. 経過報告 水島美津江三賞担当理事
4. 選考経過

第42回日本詩人クラブ賞 中原道夫選考委員長
第19回日本詩人クラブ新人賞 飯島正治選考委員長
第9回日本詩人クラブ詩界賞 中村不二夫選考委員会書記



5. 賞の贈呈 佐久間隆史会長
第42回日本詩人クラブ賞 詩集『水底の寂かさ』 清水 茂氏
第19回日本詩人クラブ新人賞 詩集『無月となのはな』 斎藤恵子氏
第9回日本詩人クラブ詩界賞 評論『テオフィル・ド・ヴィオー 文学と思想』 井田三夫氏

6. 受賞者の紹介

清水 茂氏について 布川 鵬氏

斎藤恵子氏について 瀬崎 祐氏

井田三夫氏について 荻野安奈氏

——休憩（10分）——

7. 受賞詩集から詩作品朗読

詩集『水底の寂かさ』から 山本 萌氏

詩集『無月となのはな』から 斎藤恵子氏

8. 花束贈呈

9. 受賞者挨拶

第42回日本詩人クラブ賞



清水 茂氏（詩集『水底の寂かさ』）

第19回日本詩人クラブ新人賞



第9回日本詩人クラブ詩界賞



井田三夫氏（評論『テオフィル・ド・ヴィオー 文学と思想』）

10. 閉会の言葉 水島美津江三賞担当理事

参加者

<会員> 秋元炯 麻生直子 安部加代 李承淳 諫川正臣 飯島正治 石原武 伊勢山峻 井田三夫（受賞者） 今泉協子 植村秋江 宇津木愛子 大井康暢 大掛史子 太田美智代 岡崎純 岡田喜代子 岡野絵里子

禿慶子 金子秀夫 川上明日夫 川中子義勝 川端律子 菊田守 菊地貞三 菊池敏子 北岡淳子 倉石長彦 黒羽由紀子 神品芳夫 木場とし子

斎藤恵子（受賞者） 桜井さざえ 佐久間隆史 重光はるみ 清水茂（受賞者） 庄司進 白河左江子 鈴木敏幸 関和郎 関口裕昭 瀬崎祐 宗美津子

高橋次夫 竹内美智代 武子和幸 田中眞由美 田中美千代 谷口ちかえ 樽美忠夫

中田紀子 中井ひさ子 中村吾郎 中原道夫 中村不二夫 西岡光秋 布川鵠

春井昌子 原田道子 比留間一成 船木俱子 保坂登志子 細野豊 藤原由紀子

松山妙子 丸地守 丸山勝久 水島美津江 溝口章 三田洋 宮尾壽里子 宮沢肇 村尾イミ子 村山精二

山口敦子 山田隆昭 山田直 結城文 吉田義昭 渡辺めぐみ

<会友> 梅澤鳳舞 高島鯉水子 圓航瑠真

<一般> 朝吹亮二 井田崇宏 井田裕子 上田照二 大島利治 荻野安奈 畠信彦 後藤信幸 後藤リラ子 小林慶二 野村正樹 茂木光春 山田恵里香 山田久遠 山田ひめ

大井浩一 岡部万乃 岡村嘉子 小田康之 柏田崇史 小網恵子 小室佐絵 坂原正夫 清水茂夫人 鈴木東海子 鈴木久栄 長尾道子 藤本敦子 前島康樹 山本萌 横倉れい

*総参加者115名ほど、記念パーティーにも90名の方がご参加くださり、フランス小唄やカラオケも飛び出して、華やかな会となりました。ご出席いただいた皆さま、ありがとうございました！

2009 平成21年 4月 作品研究会

担当理事：原田道子

日時 2009年4月4日（土）午後2時～5時

場所 日本詩人クラブ事務所

新宿区天神町71 宇野ビル4F

Tel & Fax 03-6413-7245

地下鉄東西線「神楽坂」駅矢来口(2番出口)下車、徒歩約5分

地下鉄有楽町線「江戸川橋」駅（1b出口）下車、江戸川橋通り沿いに南へ徒歩約5分

作品研究会・投稿規定

作品1篇（本文40行以内 A4・1枚に印刷、あるいは手書きで）を3月17日までに、事務局・宮崎亨まで。

参加費 会員・会友外500円、学生無料

参加作品

越川泰臣「午前十時のマクドナルド」、倉田武彦「カイコ」、松本ミチ子「冬の虻」、長谷川昭子「庭」、木村安子「万りょう」、青木ミドリ「夜明け前」、まるこるま「雲海メール」、早藤猛「雅楽 仁和楽」、永井正雄「あの子」、花籠梯子「日昏れて」、山崎豊揚「大きな目」、結城文「冬野菜の歌」（作品のみ参加）。

講師 網谷厚子・禿 慶子・原田道子・村山精二

講師プロフィール

★網谷厚子（あみたにあつこ）

- (1) 「白亜紀」「地球」、日本現代詩人会、日本ペンクラブ他
- (2) 詩集『天河譚 サンクチュアリ・アイランド』『万里』等6冊。
研究書『平安朝文学の構造と解釈』
評論集『日本語の詩学 遊び、喩、多様なかたち』他
- (3) 日本独自の風土への傾倒に基づくものや、現代生活における人間の悲哀を表現したものなど、幅広く、「散文詩」の形式で表現した作品が多い。

★禿 慶子（かむろけいこ）

- (1) 日本文藝家協会。日本現代詩人会。横浜詩人会。所属誌なし。
- (2) 詩集『彼岸人』『ジオラマ』『我が王国から』他。
- (3) 同人制ではない詩誌「裸人」に毎号詩を発表しています。また、詩人の交流等について、伝統的に自由な横浜という詩の風土にいることを幸せとおもっています。

★原田道子（はらだみちこ）

- (1) 「鮫」「湖」「Void」、日本現代詩人会・日本文藝家協会・日本ペンクラブ他
- (2) 詩集『うふじゅふ』『カイロスの風』など5冊。
エッセイ『遠い昔のお江戸から』『続・遠い昔のお江戸から』
- (3) 「日本語びと」としての認識をもとに、個の日常（時々刻々変化する変なる現象）から、社会的文脈（不変なるなにか）に写し取るプロセスを手に入れた、人間が操つる言語の土壌に関わる作品が多くなりつつある。

★村山精二（むらやませいじ）

- (1) 横浜詩人会、日本ペンクラブ等

(2) 詩集『帰郷』、『特別な朝』等

(3) 化学工学技術者としての観点からの詩想、肉親との死別体験などから人間を見る。

2009 平成21年 5 月 臨時総会・第60回総会

日 時 2009年 5 月 9 日(土) 午後 2 時～ 5 時

場 所 東京大学駒場Iキャンパス ファカルティハウス セミナールーム
(正門から入って左奥の建物)

TEL 03 (5790) 5931

渋谷駅より京王井の頭線・駒場東大前東口下車 徒歩 2 分

臨時総会 午後 2 時～ 2 時30分

- 内容 ・一般社団法人への移行について
・他



臨時総会議長・中村不二夫氏と佐久間隆史会長

理事会提案通り、「有限責任中間法人 日本詩人クラブ」から
「一般社団法人 日本詩人クラブ」への名称変更が承認されました。

第60回総会 午後 2 時30分～ 5 時

- 内容 ・物故会員への黙祷
・2008年度事業報告
・2008年度決算報告
・2008年度監査報告
・規約改正について
・2009年度事業計画 (案)
・2009年度予算 (案)
・名誉会員の承認
・永年会員の顕彰
・新理事会の承認
・他



第60回総会議長団・裕杏子氏、秋元炯氏



総会風景



新理事会の紹介。委任状提出503名、出席会員71名により、新理事を含め全ての議案が理事会提案通りに承認されました。

* 終了後、同所にて懇親会 会費：4,000円



西岡光秋元会長の音頭で乾杯！ 福岡県、山口県、京都府、長野県からの参加もあり、賑やかな会でした。

2009 平成21年 6 月 岡山大会

日 時 2009年 6 月13日(土) 受付12時30分～開会13時30分

場 所 岡山市「ピュアリティまきび」 J R岡山駅表口より南へ徒歩 7 分

〒710-0907 岡山市下石井2-6-41 Tel 086-232-0511

参加費 会員・会友・後援団体会員500円 一般 1,000円

お申込みお問合せ先 瀬崎 祐大会事務局長、申込は 5 月13日まで。

主な内容

(1)今年度日本詩人クラブ賞・同新人賞受賞者の詩の朗読

(2)講演「良寛の自在な詩精神——漢詩・短歌を通して」 富長覚梁氏

(3)小講演「永瀬清子の詩」 高田千尋氏

(4)アトラクション 備中神楽・おろち退治

(5)スピーチと自作詩朗読 橋爪さち子 江口節 吉田隼平 庄司進 南邦和 各氏



比留間一成新会長の挨拶



会場風景

懇親会 17時20分～19時20分 会費 6,000円 同会場「千鳥の間」
 ご宿泊「岡山シティホテル桑田町」大会会場「まきび」の西南近隣
 〒700-0984 岡山市桑田町3-30 Tel 086-221-0001 申込ハガキにてご予約を賜ります
 シングル 7,350円 ツイン2人 12,600円 ツイン1人 9,450円（朝食付きの料金）

翌日のバス旅行 古代吉備王国探訪
 ☆大会会場 8時25分出発 岡山駅15時20分散 参加費 3,500円

主催 一般社団法人 日本詩人クラブ
 後援 岡山県 岡山県文化連盟 岡山市 中四国詩人会 岡山県詩人協会 山陽新聞社 NHK岡山放送局 RSK山陽放送 oniビジョン
 実行委員長 井奥行彦
 事務局長 瀬崎 祐
 実行委員21名

大会には160名の方がご参加くださり、バス旅行にも53名の方にご参加いただきました。ありがとう

ございました。

2009 平成21年 7月 例会

担当理事：原田道子

日 時 2009年 7月11日(土) 午後 2時～ 5時

場 所 東京大学駒場Iキャンパス ファカルティハウス セミナールーム
(正門から入って左奥の建物)

TEL 03 (5790) 5931

渋谷駅より京王井の頭線・駒場東大前東口下車 徒歩 2分

参加費 会員・会友無料／会員外 500円

懇親会 終了後、同所にて。会費：2500円

内 容



2009～2010年度例会司会担当 田中美千代氏・鈴木豊志夫氏

新理事長・会長の講演



新理事長：細野 豊氏「世界の中の日本詩人クラブと私」

世界の中の日本詩人クラブと私 (要約) 細野 豊

日本の詩や文学全般を評価するに当たって、日本の尺度や価値観で計るのではなく、世界の詩その他の文学は今後どのような方向に向かうのか、その中で日本の詩や小説はどのように位置づけられるのか、という観点や尺度を持つことが必要である。

19世紀から20世紀にかけて、欧米が政治、経済、文化等あらゆる分野で世界をリードしたことは紛れもない事実であるが、今やその時代は終り、アジアやラテンアメリカに世界の中心が移りつつある。岸根卓郎著『文明の大逆転』によれば、人類文明は、有史以来「東西文明の二極」に分かれ、互いに対立しながらまるで「時計仕掛け」のように、交互に活動期と休止期を繰り返してきた。そして20世紀の後半から21世紀の前半にかけての100年間はちょうど「東西文明の周期交代期」すなわち世界の中心が西洋から東洋に移る過渡期に当たっているのである。このことは、政治、経済分野における最近の中国やインドの台頭

を見ても明らかである。

文学の分野においても、今や西欧が下降線をたどり、アジアやラテンアメリカの興隆が目立っており、日本詩人クラブの活動もかかる世界の情勢を踏まえて行う必要がある。来年の日本詩人クラブ創立60周年事業もこのような国際的視野から日本の文学や音楽を評価しようとするものであり、60周年事業の一環として、インドとネパールから詩人を招聘して行う、今年度と来年度の国際交流事業も上記の観点に合致するものとして捉えられている。

私は、「詩が《詩》であるためには、言葉が日常の言葉から脱皮して《詩の言葉》にならないといけない。そして、言葉が《詩の言葉》として生まれ変わるためには、それが心の奥底のとても深いところ、無意識の領域から湧き上がってこなければならない。無意識の領域には、性的な欲求が閉じ込められているから、そこから湧き上がってくる言葉にはエロティックなものが重要な要素となる」と考えている。この考えは、アンドレ・ブルトンと親交を持ち、シュルレアリスムに傾倒したメキシコの詩人・評論家、オクタビオ・パス（1990年、ノーベル文学賞受賞）の影響を受けて私が身につけたものである。パスは、「詩ははたらきそのものにおいてすでにエロティシズムであり、それゆえ世界と言語をエロティックなものに変容させる。」と言っている。

また、私は虚飾と偽善を醜いと思い、既成の価値観や道徳観に縛られない無垢であるがままの人間であることを目指している。

このような人間として、私は日本詩人クラブに関っていきたい。



新会長：比留間一成「現代詩 徒然草」

現代詩 徒然草 比留間一成

これは私自身の詩作の心得のようなものです。

ご一緒に考えて頂ければ幸いです。

I 自身の生きる目的、平和以外にはない。

9歳のころ上海事変、12歳 日中戦争、17歳 太平洋戦争、21歳終戦といえ、まさに戦争と共に成人したようなもの。それだけに平和を希求すること切である。

II 世界の動向と共に日本の歴史を知ること。この大戦で、進んで戦争に参加した詩人、文学者もいた。あの時代を考えると心情は理解できるが、戦争はぜったいなくさねばならない。

III 詩人はことばを遺さねばならない。

現代詩は散文化し過ぎていないか。話題になっているのは、詩が、綴り方つまり、作文、日記、論文、小説の切れ端といわれていること。何も定型をとっているのではなく、自分の使う言葉を検討したい。

IV 明治以来、近代化、現代化を急ぐ余り、日本の文化の継承をおろそかにしていないか。特に戦後は著しい。最も目立つことは、漢字教育である。漢字は日本語、漢詩の訓読は文語自由詩と指摘した学者がおられるが賛成である。次には日本の和歌、俳句、歌謡まで含めて、到達した点は「和」であるが、この継承がどうなっているか。

古典の中に解答を求めたい。

諸外国の文化は、これからも紹介されるし、それを望んで止まないが、日本の古典も十分に見直し、日本語をたしかなものにしていきたい。

*梅雨の晴れ間の爽やかな一日、80名を超える人が、新理事長の情熱的なお話、新会長の飄々としたお話に惹き込まれました。会員・会友の皆さん協力し合って、今後2年間の舵取りに期待しましょう！

2009 平成21年 9 月 現代詩研究会

担当理事：三田 洋

日 時 2009年 9 月26日(土) 午後 2 時～ 4 時30分

場 所 東京大学駒場Iキャンパス 18号館 4 F コラボレーションルーム 1

TEL 03 (5 4 6 5) 8 7 6 0

渋谷駅より京王井の頭線・駒場東大前東口（東大口）下車 徒歩約 3 分

参加費 会員・会友無料／会員外 5 0 0 円

内 容

講演「哲学するところ－存在の国の冒険」



講師：三好由紀彦氏

コーディネーター：三田 洋氏

講演内容

- (1)そもそも哲学とは何か
- (2)「存在」と「無」を巡って
- (3)科学的先入見について
- (4)超越としての死と宗教
- (5)21世紀と哲学の使命
- (6)哲学と詩と私

質疑応答に時間を割きます。哲学に関する初歩的な質問など忌憚なく意見を出し合い、認識を深めましょう。混迷する時代の中で、きっと詩作や生き方への糧になるはずです。

■哲学という学問は、その対象となるテリトリーというものがハッキリしません。意識を論ずることもあれば、自然や心理、言語、論理のこともあり、さらには社会、歴史、芸術、文学など、八方美人よろしくあらゆるジャンルに顔を出してくるのです。（中略）

哲学が研究対象とするものとは「存在」、つまり「あるものすべて」のことだからです。そ

れは宇宙のさい果てにある惑星から目の前の小石ひとつまで、さらに私たちの頭や心の中にあるものまでを対象とすることだからです。

■哲学は、存在が存在することを不思議に思い、そもそもなぜわれわれの目の前に存在が在るのか、という疑問から出発する学問です。つまり、存在の外側から存在を考える学問なのです。

■科学というものも、じつはある大きな偏見の中でこの世界を見ています。私たちは、科学が語ることはすべて正しく、この世界の本当の姿を教えてくれると思っていますが、驚くべきことにじつは科学もかつての神話や宗教と変わらず、ひとつの迷信なのです。

(著書より)

■三好由紀彦氏プロフィール

1958年東京生まれ。詩人、哲学者。紀元アカデミア代表。元専修大学難波宏至教授に師事し哲学や文学を学ぶ。1983年ウィーンに留学し語学やヨーロッパ文化を学ぶ。著書として『哲学の扉をあけよう』（PHP研究所）、『はじめの哲学』（ちくまプリマー新書）、『深海魚は海を知らない』（祥伝社新書）などがあり、判りやすい哲学者として哲学者故池田晶子氏も推称。詩集として『生歌』『さよなら21世紀』などがある。元「地球」同人、日本詩人クラブ会員。

※真夏を思い出させるような暑さの中、35名の人が哲学について学びました。質問も多く出、予定時間をオーバーするほどでした。

2009 平成21年 9月 例会

担当理事：原田道子

日 時 2009年9月12日(土) 午後2時～5時

場 所 東京大学駒場Iキャンパス ファカルティハウス セミナールーム

内 容

小講演「故名誉会員・笈楨二の業績について」



講師：石原 武氏

講演「マニエリスム詩人、テオフィル・ド・ヴィオー その文学と生き方について」



講師：井田三夫氏

(コーディネーター：山田 直氏)

十七世紀初頭のマニエリスム詩人、テオフィル・ド・ヴィオー（1590～1626）の文学の特質とその生き方について、詩作品の具体例を示しながら概説的なお話をさせていただければと考えております。

生前信仰＝政治上の迫害を受けて夭折したこの牢獄詩人はネルヴァルやゴーティエといったフランスロマン主義詩人に大きな影響を与えたばかりでなく、二十世紀に入ってもシュルレアリスムの先駆者ピエール・ルヴェルディやトリスタン・ツァーラ、ブルトンといったダダ・超

現実主義詩人たちに、その夢想的(オニリック)な詩、とりわけその形而上的苦悩や世界崩壊の宇宙的ヴィジョンによって、きわめて現代的な新しい感性の持主の詩人として高く評価され、彼らに大きな影響を与えた詩人ですが、何故かわが国ではほとんどまったく知られておりませんので、この機会に彼の文学と生き方を概論的にご紹介できればと考えております。

講師プロフィール

井田三夫（いだ・みつお）

1942年埼玉県本庄市生まれ。67年慶應義塾大学文学部仏文科卒、74年同大大学院文学研究科博士課程修了、文学博士（2009年慶應義塾大学）。現在、慶應義塾大学名誉教授。著書に『ネルヴァルの幻想世界 その虚無意識と救済願望』（2005年慶應義塾大学法学部賞受賞）、『テオフィル・ド・ヴィオー 文学と思想』（第9回日本詩人クラブ詩界賞受賞）がある。

*60名ほど（うち10名ほどは会員・会友外）の皆さまにお集まりいただきました。雨の中をおいで下さりありがとうございました。

2009 平成21年 10月 例会

担当理事：原田道子

日 時 平成21年10月10日（土）午後2時より

場 所 東京大学駒場Iキャンパス ファカルティハウス・セミナールーム

内 容

・会員による小スピーチと詩の朗読



新井豊古氏



高島清子氏



峰岸了子氏

・日本詩人クラブ「オンライン現代詩作品研究会」について...村山精二電子メディア専門委員

・講演 『私見・「戦後詩」の収束と、これからの詩の危機』について





<会場風景>

実体験に基づく戦前・戦後詩の流れを75名の皆さまと拝聴しました。

2009 平成21年 11月 現代詩研究会

担当理事：三田 洋

日 時 平成21年11月28日（土）午後2時より4時30分

場 所 東京大学駒場Iキャンパス 18号館4F コラボレーションルーム1

参加費 会員・会友無料／会員外500円

内 容

・講演「アメリカ先住民の詩人たち」 講師：青山みゆき氏

(1)アメリカ先住民詩との出会い (2)アメリカ先住民とは誰なのか (3)口承詩と草創期のアメリカ先住民の詩人たち (4)現代のアメリカ先住民の詩人たち

大地に根ざした彼らの生き方や詩 –それは人類の叡智！–

アメリカ先住民はコロンブスの新大陸到達よりはるか以前からアメリカ大陸に住み、これまで白人による虐殺や弾圧、土地の略奪などありとあらゆる困難を耐え抜いてきたが、彼らの歌や物語も決して消え去ることがなかった。アメリカ先住民は代々口から口へと伝承されてきた口承詩を継承してきただけでなく、実は彼らは十七、八世紀以降から自伝や詩や物語などを書き続けてきた。そして、いま現在も一流の素晴らしい作品を生み出しつづけているのだ。

多くのアメリカ先住民詩人が描いている大地に抱かれた生き方は、自然の生態系を急激に破壊し、すべての生きとし生けるものを絶滅させることしか知らない、現代のテクノロジー崇拜の文明を批判する力になりうる。地球上では人間もまた自然の一部であり、あまたの命に満ちた世界での人間のありようはつねに模索される。アメリカ先住民が示す大地に根ざした世界観や生き方こそ、わたしたちすべての人びとにとってのほんとうの叡智かもしれない。（『ネイティブ・アメリカン詩集』解説より）

忘れないで（部分）／ジョイ・ハージョ（女性詩人、テナーサックス奏者、脚本家、編集者）

忘れないで、あなたが生まれたことを、あなたに形と息を与えるために
あんなにもあなたの母親が苦しんだことを。あなたはあなたの母親の、
あなたの祖母の、あなたの曾祖母の命の証。

忘れないで、あなたの父親を、もうひとりのあなたの命を。

忘れないで、あなたの皮膚である大地を――

（略）

忘れないで、草木を、そして動物たちの命を、その数々の部族を、彼らの家族を、そしてその歴史を。彼らに語りかけて欲しい、耳を傾けて欲しい。みんな生きている詩そのもの。

■青山みゆき氏プロフィール■

栃木県足利市生まれ。アメリカ女性詩人研究の過程でネイティブ・アメリカンに関り、その大

地に抱かれた生き方や詩に魅力を覚え主要なテーマとなる。詩集『西風』(思潮社 1998年)、評論集『大地の手の中でーアメリカ先住民文学』(開文社 2004年)、新・世界現代詩文庫『ネイティブ・アメリカン詩集』(土曜美術社出版販売 2009年)、翻訳書『エリカ・ジョング詩集』(土曜美術社 1993年)、『日本現代女性句歌選集 A Long Rainy Season (Berkeley: Stone Bridge Press 1994)』(1995年度ベンジャミン・フランクリン賞受賞)。現在、聖徳大学人文学部英米文化学科准教授。日本詩人クラブ会員。



アメリカの地図を示しながら講義する青山みゆき氏。右はコーディネータの三田洋氏。暑いほどの陽射しの中、30名を超える人が拝聴しました。

2009 平成21年 11月 例会

担当理事：原田道子

日 時 平成21年11月14日(土) 午後2時より5時

場 所 東京大学駒場Iキャンパス 学際交流ホール

TEL 03(5454)6447

渋谷駅より京王井の頭線・駒場東大前東口(東大口)下車 徒歩約1分
(正門を入れてすぐ右側の建物)

参加費 会員・会友無料／会員外500円

内 容

・ 会員による詩の朗読



池田康氏



方喰あい子氏

・ 小講演「希望、絶望、そして」 講師：瀬崎祐氏



詩を書きたいという根元的な欲求は、遭遇したできごとによって生じるのではなく、できごとによって喚起された心の動きによって生じる、ということは論を待たないでしょう。そんな心の動きの典型的状態のひとつ、希望をもつこと、絶望におちいること、などについて、あまり医学的ではない若干の考察をおこないます。

詩を書くのは、希望を持つため？

それとも、絶望におちいったため？

講師プロフィール 瀬崎祐（せざき・ゆう）

1947年岡山生まれ。京都大学医学部卒。個人誌「風都市」発行、詩誌「ERA」「どうかまら」同人。詩集に「風を待つ人々」「雨降り舞踏団」など。昨年「詩と思想」誌の詩集評を担当、今年の日本詩人クラブ新人賞の選考委員を務めた。

・ 講演「とけるもの ふくらむもの 詩と小説の回路」 講師：稲葉真弓氏

コーディネ

ーター：原田道子理事



「井上ひさし 川端康成文学賞選評から抜粋」

語り手である私は、深酒つづきの不健康な毎日を送る独身女性（編集やライター）。その私が正月休みに、志摩半島の小さな湾にのぞむ急斜面の家で10日ほど滞在する。遠景での隣町の八十代の老女の行方不明事件が起こり、それが私の方へゆっくりと「心理的に」近づいてくるが、老女は老いの象徴だろう（たぶん、そうだ）。

この遠景のせいか、今回の滞在で「私」は、家のまわりの樹木や草花や小動物や鳥や星空がはっきりと見えてくる。「はっきりと見えてくる」のであるから、家のまわりについての描写は（あたかも初めて見ましたとでもいうように）新鮮で正確なものでなければならないが読者は十分に充たされる。光る比喻をちりばめた正確で細密な描写が、魔法のように「失われた時間」を浮かび上がらせる。静かな戦慄がそこにある。

講師プロフィール 稲葉真弓（いなば・まゆみ）

1950年愛知県生まれ。1973年「蒼い影の傷みを」で女流新人賞、1980年「ホテル・ザンビア」で作品賞、1992年「エンドレス・ワルツ」で女流文学賞、1995年「声の娼婦」で平林たい子文学賞、2008年「海松(みる)」で川端康成文学賞を受賞。他の著書に「還流」「私がそこに還るまで」「砂の肖像」など。詩集「ほろびの音」七月堂 「夜明けの桃」河出書房新社 「母音の川」思潮社

若い頃詩ばかり書いていたが、「はみだしてしまう思いと言葉」を持て余し、小説をかくようになった。



<会場風景>

悪天候の中、60名の皆さまがおいでくださりました。ありがとうございました。

(社)日本詩人クラブ創立60周年記念 国際交流インド2009

日本詩人クラブは、2010年5月に創立60周年を迎えます。それを記念し、2009年12月から2010年12月までを記念年として様々な行事を計画しております。どうぞご予定に加えてください。皆さまと楽しい時間を過ごしたいと思います。

いずれも申し込み、問い合わせは谷口ちかえ国際交流担当理事、または細野豊理事長へ。

インド国立文学アカデミー会長 シュニル・ゴンゴパッダエ氏を迎えて

【2009年12月11日(金)】

・シュニルさんと歩く東京

(1) 江戸東京博物館見学 10:30～ 博物館入口チケットブース集合

参加費:2430円

(2) クルーズ船「ヒミコ」に乗ってお台場へ 14:30～ 浅草寺・雷門集合

参加費:1830円

* 水上バス「ヒミコ」～お台場海浜公園～ゆりかもめ～竹芝・汐留で16:00頃解散

・前夜祭 18:00より アジュール竹芝「武蔵野」(理事会・顧問・ほか関係者のみ)

場所：〒105-0022 東京都港区海岸1-11-2

TEL：03-3437-2011(代表)

URL <http://www.hotel-azur.com/index.html>

J R 山手線・京浜東北線浜松町駅北口より竹芝方向へ徒歩7分。

羽田空港からモノレール利用で浜松町まで23分。

都営浅草線大門駅B1出口より徒歩8分。

都営大江戸線大門駅B1出口より徒歩8分。

東京臨海新交通ゆりかもめ竹芝駅より1分。

【2009年12月12日(土)】

国際交流のつどい「タゴール以後のインド詩—多言語国家の詩文学」

場所：シーサイドホテル芝弥生2F「あかつき」

〒105-0022 東京都港区海岸1-10-27

TEL：03-3434-6841(代表)

URL <http://www.jrhotelgroup.com/hotel/open.cgi?hid=115>

J R、モノレール浜松町(北口)より徒歩7分

地下鉄都営浅草線・大江戸線大門駅B2口より徒歩8分

水上バス日の出桟橋より徒歩5分

新交通「ゆりかもめ」竹芝駅より徒歩2分

プログラム

13:30 受付開始

14:00 開会 開会の言葉・比留間一成会長挨拶

14:10 ゴンゴパッドエ氏紹介（谷口ちかえ理事）

14:20 小講演「日本におけるインド詩の受容」臼田雅之氏

14:40 基調講演 S.ゴンゴパッドエ氏

15:30 休憩

15:40 小講演「1950年代のインドの詩人たち」丹羽京子氏
質疑応答

16:40 詩の朗読ほか

17:10 閉会

*資料代:500円(学生無料)

17:30 忘年会（同所11F「ふじ」+「さくら」）

挨拶・スピーチ・新入会員紹介・アトラクション

20:00 閉会

*会費:7000円



講演中のシュニル・ゴンゴパッドエ氏。

駐日クロアチア大使を始め160名を超える方がおいでくださいました。

続く記念パーティー・忘年会にも120名を超える人が参加。竹芝の夜を愉しみました。

【2009年12月13日(日)】

国立国会図書館 国際子ども図書館にて講演（同館企画）

場所：〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49

TEL：03-3827-2053（代表）

URL <http://www.kodomo.go.jp/index.jsp>

J R上野駅公園口より徒歩10分

東京メトロ 日比谷線・銀座線 上野駅より徒歩15分

プログラム

14:00 講演「インドにおける児童文学の今」S.ゴンゴパッダエ氏

ほか

16:00 閉会

【2009年12月14日(月)】

インドと日本の心に触れるタベータゴールと啄木

場所：駐日インド大使館内 インド文化センター1・2Fホール

〒102-0074 千代田区九段南2-2-11

電話：03-3262-2391、03-3262-2397

地下鉄半蔵門線・新宿線・東西線「九段下」下車、2番出口

プログラム

18:30 開演

開会の挨拶 一般社団法人日本詩人クラブ会長 比留間一成

スピーチ 「インドと日本を結ぶ詩心ーR・タゴールの『蜩』をめぐって」早稲田大学

名誉教授 清水茂氏

スピーチ 「インド詩との邂逅ーゴンド族のラブ・ソングとジャヤンタ・マハパトラ」

文教大学名誉教授 石原武氏

講演 「英国支配へのインド抵抗運動とラピンドラナート・タゴール」

講師 インド国立文学院会長 シュニル・ゴンゴパッダエ氏

インドの歌と踊り タゴール・ソング 奥田ゆか氏

講演 「石川啄木とインド、そしてタゴール」講師 国際啄木学会副会長・明治大

学教授 池田功氏

日本の歌ー石川啄木 明治大学合唱団 さわらびコール

閉会のことば 金子秀夫理事

20:30 終演

* 入場無料、申し込み先着100名



写真は明治大学合唱団・さわらびコールの皆さま。スピーチ、講演とともに爽やかな歌声を150名ほどの人と楽しみました。